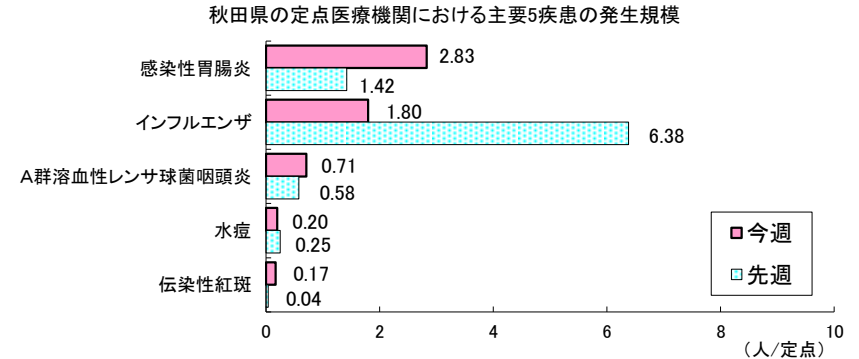




【第19週の発生動向】

＜定点把握対象疾患(週報)・前週比＞

1. 感染性胃腸炎は、県全体で2.0倍に増加しています。保健所別では、秋田市、大館、北秋田、由利本荘、大仙、横手で増加、能代で同規模、秋田中央、湯沢で減少しています。
2. インフルエンザは、県全体で72%減少しています。保健所別では、報告のあった全ての保健所で減少しています。
3. A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、県全体で1.2倍に増加しています。保健所別では、秋田市、大館、秋田中央、横手、湯沢で増加、由利本荘、大仙で減少しています。



発生報告

＜五類定点対象疾患(週報)＞

疾患名	秋田県			秋田市			大館			北秋田			能代			秋田中央			由利本荘			大仙			横手			湯沢		
	第18週	第19週	増減	第18週	第19週	増減	第18週	第19週	増減	第18週	第19週	増減	第18週	第19週	増減	第18週	第19週	増減	第18週	第19週	増減	第18週	第19週	増減	第18週	第19週	増減			
RSウイルス感染症	0.13	0.06	↘												0.33	0.25	↘	0.50			0.25				0.33	↗				
インフルエンザ	6.38	1.80	↘	7.67	1.55	↘	2.00	1.86	↘				5.00	1.00	↘	6.60	1.00	↘	6.00	0.83	↘	6.83	3.14	↘	3.40	2.40	↘	22.00	3.60	↘
咽頭結膜熱	0.04	0.14	↗		0.57	↗									0.33		↘												0.25	↗
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.58	0.71	↗	0.40	1.43	↗		0.25	↗						0.67	1.25	↗	0.50	0.25	↘	2.00	1.00	↘		0.33	↗	0.50	0.75	↗	
感染性胃腸炎	1.42	2.83	↗	1.40	4.29	↗		3.00	↗		3.50	↗	4.00	4.00		2.33	2.25	↘		1.75	↗	1.25	2.25	↗		1.00	↗	3.50	2.50	↘
水痘	0.25	0.20	↘	0.40	0.43	↗		0.25	↗												1.00	0.25	↘		0.33	↗		0.25	↗	
手足口病																														
伝染性紅斑	0.04	0.17	↗	0.20	0.43	↗		0.50	↗																				0.25	↗
突発性発しん	0.04	0.11	↗		0.14	↗		0.25	↗									0.50	0.25	↘		0.25	↗							
ヘルパンギーナ																														
流行性耳下腺炎		0.11	↗								0.50	↗							0.75	↗										
川崎病		0.03	↗																					0.33	↗					
急性出血性結膜炎										*	*		*	*		*	*											*	*	
流行性角結膜炎	0.25	0.14	↘		0.33	↗				*	*		*	*		*	*					1.00		↘		*	*			
細菌性髄膜炎															*	*														
無菌性髄膜炎															*	*														
マイコプラズマ肺炎	0.13		↘	1.00		↘									*	*														
クラミジア肺炎(オウム病を除く)															*	*														
感染性胃腸炎(ロタウイルスによるもの)		0.25	↗												*	*													2.00	↗

(注) 表の数値は、観測定点としている県内の医療機関から報告された患者報告数を、1定点あたりに換算した人数を示し、前週と比べて「↗」は増加を、「↘」は減少していることを示します。
 「*」印は、当該疾病に関わる定点医療機関が指定されていないことを、空欄は全ての定点で当該週における患者の報告数がなかったことを示します。



発生報告

<全数把握対象疾患>

- ・二類感染症の結核が大館保健所管内から1人、報告されました。
- ・四類感染症のレジオネラ症が大仙保健所管内から1人、報告されました。
- ・五類感染症の急性脳炎が秋田市保健所管内から1人、梅毒が秋田市保健所管内から1人、大仙保健所管内から1人、侵襲性肺炎球菌感染症が秋田市保健所管内から1人、能代保健所管内から1人、報告されました。

<全数把握疾患>

類型	疾患名	(人)		
		1週-18週 全国	秋田	19週 秋田
一類	エボラ出血熱			
	クリミア・コンゴ出血熱			
	痘そう			
	南米出血熱			
	ペスト			
	マールブルグ病			
	ラッサ熱			
二類	急性灰白髄炎			
	結核	6752	32	1
	ジフテリア			
	重症急性呼吸器症候群			
	中東呼吸器症候群			
	鳥インフルエンザ(H5N1)			
	鳥インフルエンザ(H7N9)			
三類	コレラ	2		
	細菌性赤痢	30		
	腸管出血性大腸菌感染症	350		
	腸チフス	13		
	パラチフス	9		
四類	E型肝炎	164		
	ウエストナイル熱			
	A型肝炎	156	7	
	エキノкокクス症	3		
	黄熱			
	オウム病	9		
	オムスク出血熱			
	回帰熱			
	キャサヌル森林病			
	Q熱			
	狂犬病			
	コクシジオイデス症	1		
	サル痘			
	ジカウイルス感染症			
	重症熱性血小板減少症候群	14		
	腎症候性出血熱			
	西部ウマ脳炎			
	ダニ媒介脳炎			
	炭疽			

類型	疾患名	(人)		
		1週-18週 全国	秋田	19週 秋田
四類	チクングニア熱	2		
	つつが虫病	48		
	デング熱	99		
	東部ウマ脳炎			
	鳥インフルエンザ(H5N1、H7N9を除く)			
	ニパウイルス感染症			
	日本紅斑熱	16		
	日本脳炎			
	ハンタウイルス肺症候群			
	Bウイルス病			
	鼻疽			
	ブルセラ症	1		
	ベネズエラウマ脳炎			
	ヘンドラウイルス感染症			
	発しんチフス			
	ボツリヌス症	1		
	マラリア	12		
	野兔病			
	ライム病			
	リッサウイルス感染症			
リフトバレー熱				
類鼻疽				
レジオネラ症	436	5	1	
レプトスピラ症	3			
ロッキー山紅斑熱				
五類	アマーバ赤痢	298	4	
	ウイルス性肝炎(E型及びA型を除く)	103		
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	613	3	
	急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く)	18		
	急性脳炎	380	3	1
	クリプトスポリジウム症	6		
	クロイツフェルト・ヤコブ病	51		
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	317	3	
	後天性免疫不全症候群	379		
	ジアルジア症	12		
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	214	1	
	侵襲性髄膜炎菌感染症	19		
	侵襲性肺炎球菌感染症	1331	8	2
	水痘(入院例に限る)	139	5	
	先天性風しん症候群	2		
	梅毒	2052	6	2
	播種性クリプトкокクス症	48		
	破傷風	22		
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症			
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	28		
百日咳	5337	43		
風しん	1434	2		
麻しん	467			
薬剤耐性アシネトバクター感染症	12			

トピック

<ノロウイルスによる感染性胃腸炎に注意しましょう>

ノロウイルスを原因とする感染性胃腸炎は、冬に多く発生する感染症として知られています。しかし、近年は春から初夏にかけて病原体定点におけるノロウイルスの検出が増加する傾向にあり、昨シーズンは、4~6月の検出数が冬期を大幅に上回りました(図)。今シーズンの4月は集団感染事例が5件発生しています(表)。「感染性胃腸炎」は一年を通して発生しますので、今後も感染予防に心がけましょう。

■症状

潜伏期間は24~48時間で、主な症状は嘔吐・下痢・腹痛・発熱です。通常、これらの症状は1~3日程度で治まります。ただし、乳幼児や高齢者では、嘔吐・下痢による脱水や吐いた物をのどに詰まらせての窒息などに注意が必要です。

■予防

感染予防には、手洗いが最も重要です。トイレの使用後や調理・食事の前には、石けんをよく泡立ててしっかりと手を洗いましょう。

また、患者の便や嘔吐物には大量のウイルスが含まれているため、これら进行处理するには手袋やマスクを着用しましょう。消毒には塩素系漂白剤が有効です。速やかに適切な処理を行い、周囲への感染を広げないことが大切です。

(参照)厚生労働省HP:ノロウイルスに関するQ&A

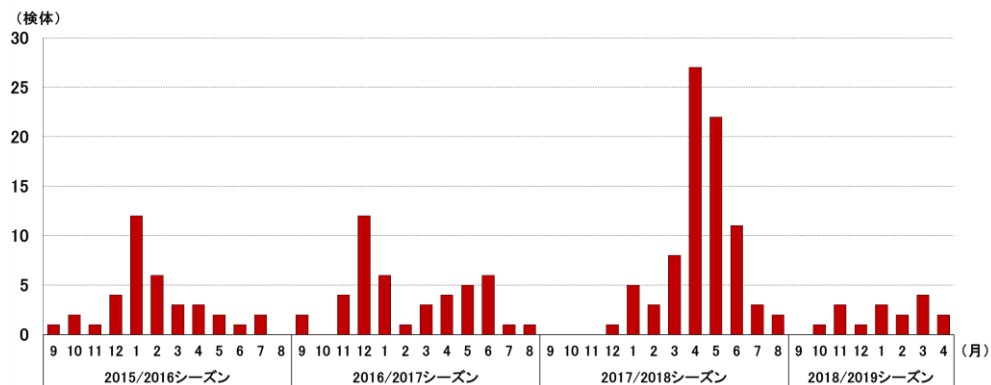


表 秋田県においてノロウイルスが検出された集団感染事例(4月分)*

検体搬入月日	保健所管区	検体収集区分	遺伝子型
4月1日	秋田中央	保育所	ノロウイルスGII.4型
4月9日	由利本荘	保育所	ノロウイルスGII.3型
4月22日	由利本荘	小学校	ノロウイルスGII.4型
4月25日	大館	保育所	ノロウイルスGII
4月26日	北秋田	保育所	ノロウイルスGII

* 秋田県健康環境センターにて検査実施



2018年/2019年シーズン (2018年第36週 : 9月3日～) インフルエンザ情報

定点あたり患者数の推移(インフルエンザサーベイランス)

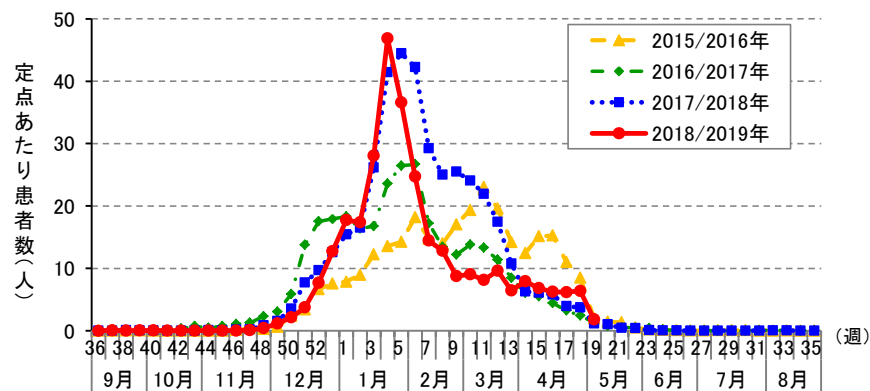


図 秋田県におけるインフルエンザ患者の発生状況

社会福祉施設等におけるインフルエンザ集団発生状況

インフルエンザによる集団発生の報告はありませんでした。

【インフルエンザの集団発生状況】

○今シーズン(5月12日時点)の報告数

177施設: 社会福祉施設49、保育所・幼稚園110、病院18

※原則、10人以上または
利用者の半数以上の
発生報告です。

インフルエンザ入院サーベイランス

表 2018/2019シーズン

秋田県におけるインフルエンザによる入院患者報告数

患者数 (人)			
秋田県		全国	
5/6～5/12 (19週)	累計	4/29～5/5 (18週)	累計
3	385	105	20,493

○入院サーベイランスの報告数は、秋田県内8か所、全国約500か所の基幹定点医療機関からの報告です。全国の報告数は公表前のため、1週間遅れの数値になります。



感染性胃腸炎情報

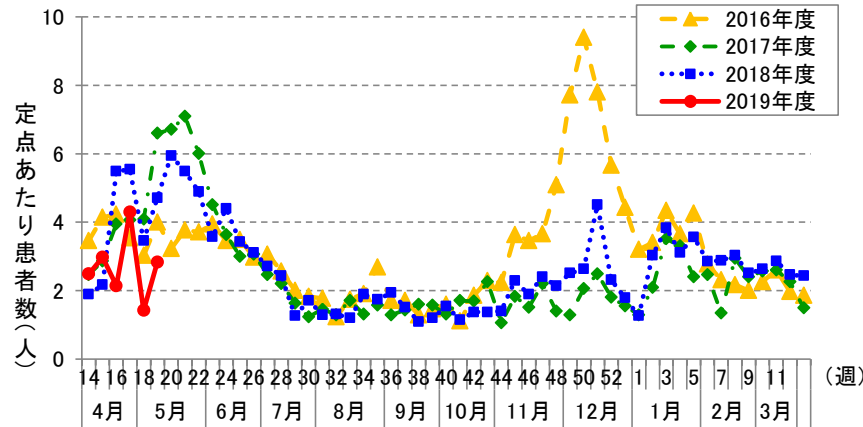


図: 秋田県における感染性胃腸炎の発生状況

社会福祉施設等における感染性胃腸炎の集団発生発生状況

感染性胃腸炎の集団発生報告はありませんでした。

【感染性胃腸炎の集団発生状況】

○2019年度(5月12日時点)の報告数

7施設 有症者119名:社会福祉施設1、保育所・幼稚園5、その他1

※原則、10人以上または利用者の半数以上の発生報告です。

感染症の集団発生報告

ヒゼンダニによる疥癬の集団発生報告が1件ありました。

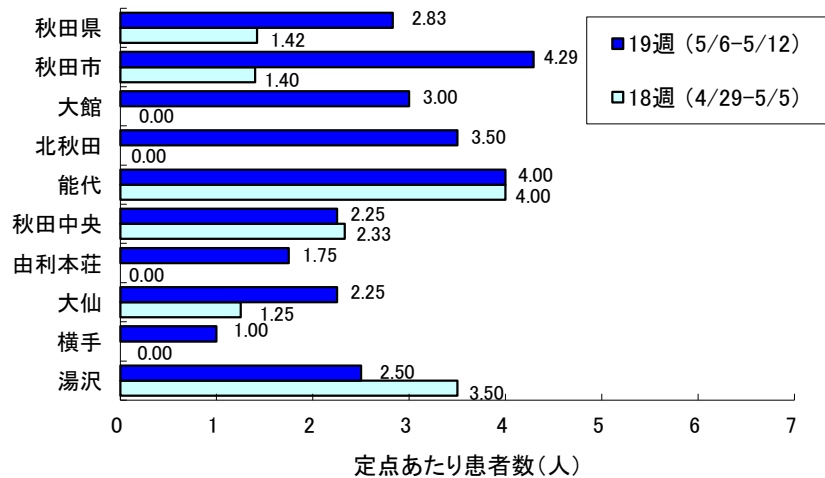


図: 秋田県各保健所における感染性胃腸炎の発生状況

所在地	施設名称	報告日	有症者数			把握期間	症状
			利用者(園児、入所者等)	職員	計		
三種町	介護老人保健施設 やかた・やよい	5/9	100名のうち 14名	84名のうち 20名	34名	5/7 ~ 5/9	発疹、掻痒感



【注意報・警報の発生状況】

疾患名	注意報	警報
	保健所(発生規模)	保健所(発生規模)
注意報・警報はありません。		

■ 注意報・警報の定義

【注意報・警報の定義】

- 1) 注意報: 流行の発生前であれば今後4週間以内に大きな流行が発生する可能性があることを示し、流行の発生後であればその流行がまだ終わっていない可能性がある(終息していない)ことを示します。
- 2) 警報: 大きな流行の発生・継続が疑われることを示します。

対象疾患	注意報			対象疾患	警報		
	基準値(人/定点)	開始基準値(人/定点)	継続基準値(人/定点)		基準値(人/定点)	開始基準値(人/定点)	継続基準値(人/定点)
インフルエンザ	10	30	10	伝染性紅斑	-	2	1
咽頭結膜熱	-	3	1	ヘルパンギーナ	-	6	2
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	-	8	4	流行性耳下腺炎	3	6	2
感染性胃腸炎	-	20	12	急性出血性結膜炎	-	1	0.1
水痘	1	2	1	流行性角結膜炎	-	8	4
手足口病	-	5	2				

■ 保健所地域

保健所	所管市町村	保健所	所管市町村
大館保健所	大館市、鹿角市、小坂町	由利本荘保健所	由利本荘市、にかほ市
北秋田保健所	北秋田市、上小阿仁村	大仙保健所	大仙市、仙北市、美郷町
能代保健所	能代市、藤里町、三種町、八峰町	横手保健所	横手市
秋田中央保健所	男鹿市、潟上市、五城目町、八郎潟町、井川町、大潟村	湯沢保健所	湯沢市、羽後町、東成瀬村
秋田市保健所	秋田市		